

第2期（平成30年度～令和2年度）第5回日進市地域包括ケア検討会議 議事録

日 時	令和3年2月9日（火） 午後2時から午後3時15分まで
場 所	日進市民会館 展示ホール（Zoom 併用）
出 席 者	五十里 明（会長）、宮川 浩一（副会長）、中井 英貴、長谷川 清、横井 裕子、神野 建三、伴 律子、伊東 幸仁、山田 幹雄、加藤 知恵美、横山 英治、齋藤 寛子、鈴木 康元、住田 敦子、村井 良則、富岡 亜希子
欠 席 者	長谷川 純
事 務 局	川本 賀津三（健康福祉部担当部長）、加藤 誠（健康福祉部次長兼地域福祉課長）、三好 恵太（介護福祉課課長補佐）、牟田 貴子（地域福祉課課長補佐）、野村 圭一（地域福祉課地域支援係長）、桑島 萌（地域福祉課地域支援係主事）、藤田 綾子（保険年金課保健事業係長）
傍聴の可否	可
傍聴の有無	有（5名）
次 第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 第8期介護保険事業計画（案）について 4 閉 会
配 布 資 料	次第 資料1 第8期にしん高齢者ゆめプラン（案） 資料2 第8期にしん高齢者ゆめプラン（案）パブリックコメント実施結果（最終版） 資料3 第8期にしん高齢者ゆめプラン（案）について（前回会議からの主な変更点） 資料4 パブリックコメントを受けて修正した第8期にしん高齢者ゆめプラン（案）の該当ページ

発 言 者	内 容
	1 開会
	2 傍聴人案内・入場
	3 議題
会 長	会長の五十里です。 これからの議事の進行について、皆様ご協力よろしく申し上げます。それでは、議題「第8期にしん高齢者ゆめプランについて」事務局から説明をお願いします。

発 言 者	内 容
事 務 局	(資料1～4に基づいて説明)
会 長	まず事務局からの第3章の説明について、ご質問やご意見はありますでしょうか。
委 員	<p>資料98ページの基本目標2における、「地域包括支援センターの認知度」について、現状54.1%のところを目標が60%になっています。地域包括支援センターというのは、高齢者にとって非常に重要な役割を果たしていただいていると思いますので、名前だけ知っているではなくて、事業内容まである程度知っているというところでの目標60%にさせていただきたいと思います。</p> <p>もう一つ、99ページの「認知症サポーターの認知度」について、第7期に引き続き、第8期でもしっかりと取り組んでいかななくてはいけないと思いますが、内容を知っていると回答した割合が現状7.8%で目標が10%というのは、目標として少し寂しいように思います。ぜひ目標を大きく上回るような成果が出せるよう力を入れてやっていただきたいと思います。</p> <p>地域に住んでいる者としましては、やはり地域包括支援センターの役割が非常に重要で、現在限られたスタッフで頑張っておられますけれど、期待される役割が十分に果たせるよう、工夫していただきたいと思います。</p>
事 務 局	<p>地域包括支援センターの認知度についてはおっしゃるとおりで、高齢者の方が何か困ったときに地域包括支援センターに相談しようと思っただけなのが、身近な存在として望まれる姿かと思っています。事業内容まで知っている方が増えるよう周知啓発に努めて参ります。地域包括支援センターも各地域の出前講座などで積極的に取り組んでいただいているので、市も一緒になって周知啓発により取り組んで参ります。</p> <p>また、認知症サポーターの認知度について、目標が10%なのは低いのではとのご指摘でしたが、過去の同様のアンケート結果も踏まえてこのような指標を出していますが、これを上回る結果になればよいと思っておりますし、知っているだけではなく、ご自身や家族が認知症サポーターになっていただくことも一つ大事なことでと考えています。今回、サポーターの認知度を指標として挙げておりますが、他の計画では認知症サポーターの数を地域福祉計画の指標にしていたりしますので、数を増やすことも大事と思っています。</p> <p>昨日、市民向けの認知症サポーター養成講座を行い、このようなご時勢なので、定員は多くはないのですが、定員近くまで申込みがあり、市民の方からも関心が高いものだと思います。引き続き、サポーター養成講座を含め、3年後に目標を大きく上回る結果をご報告できる</p>

発 言 者	内 容
会 長	<p>よう取り組んで参ります。</p> <p>達成目標について、いくつかご指摘もありましたが、目標値を上げるということはいいことなので前向きに取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>認知症サポーターはかなり歴史のあるものです。一定のところまでいって、最近は静かになっているようにも見えますが、認知症施策は国をあげて力を入れていますし、愛知県も大府市や国立長寿医療研究センターが積極的です。さらなる充実を期待したいと思います。</p>
委 員	<p>認知症は身近なもので、特定の人だけのものではないと感じていますし、周りから声も挙がっています。どのように支援していったらよいか、身近な問題になっていますのでよろしくお願いします。</p>
委 員	<p>前回会議からの主な変更点の中で、第3章のⅡ③がやまびこ日進に関わる部分ですが、本文78ページの「在宅医療・介護連携に関する相談支援」について、追加していただきました。これまでも訪問診療や訪問栄養指導などの相談を受けて実施してきましたが、まだ件数は少ないので、今回計画に追加いただき感謝しております。充実するように、やまびこ日進でもいろいろな施策に取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>また、79ページの「在宅医療・介護連携システムの活用」で、こちらはヘルピーネットの効果的な活用方法について記載があります。それと、98ページの評価指標で、「在宅医療・介護連携システムの活用」について、前は登録している患者数を載せていたものを、今回は「積極的に活用している」「比較的活用している」と回答した割合に変えて掲載いただいています。患者数の登録を増やすことももちろん大事なことです。ここが仮に増加したとしても、ヘルピーネットが患者支援のためにどれだけ使われているかは、ヘルピーネットの管理者である市でも把握することは難しいと思いますので、今回のように指標のところを変更してもらったことは非常によかったかなと思います。</p> <p>ただ、次回の見直しの際に、どのようなアンケート結果が出るのか、目標数値を達成できているのか把握されると思いますが、どのシステムでも成果が出ることは難しいと思うので、そこは毎年効果的な対策を考えながら進めていただきたいと思います。</p>
事 務 局	<p>1点目の訪問診療等については、医師会や歯科医師会等の先生方にご協力いただいて、訪問診療や訪問歯科診療を紹介できるシステムを整えていただいて、ケアマネの皆さんに周知いたしました。在宅の方で、なかなか往診の先生が見つからないといった際に、システムを利用いただけるので、これからも積極的に周知して参ります。</p>

発 言 者	内 容
	<p>それから、ヘルピーネットの周知につきましては、おっしゃる通りで患者数は増えていっても、使っているのが一部だけではないので、多くの方に使っていただきたいということで指標を変えました。操作説明等の普及啓発は行っていますし、介護保険報酬改定にもヘルピーネットが対応できるとよいと考えています。介護保険に関わる全てのサービス事業者に登録いただいているので、ぜひご活用いただきたいと思っています。</p>
会 長	<p>在宅医療は地域包括ケアシステムの一つの柱ですし、その中でも栄養ケアステーションがありますが、ご紹介いただけますか。</p>
委 員	<p>東名古屋医師会のやまびこの中に栄養ケアステーションを設置していきまして、五十里先生を始め、名古屋学芸大学にも大きなご協力をいただき、日本栄養士会にも認定され運営をしております。設置してから2年以上経っていますが、比較的順調に相談件数や栄養指導をする件数は増えてきていますが、この1年はコロナの関係で落ち込みはあります。今のシステムでは開業医の先生が、外来とか訪問診療の中で栄養指導が必要という状況が生じたときに、やまびこに登録している管理栄養士を派遣して栄養指導をしてもらうシステムですので、コロナが落ち着いてからは活動が十分にできるよう進めていきたいと思っています。</p>
委 員	<p>民生委員でヤングケアラー、在宅で子どもたちが高齢の親などを看ているケースを検討しているのですが、まだ日進ではそのようなケースは把握していないでしょうか。</p>
事 務 局	<p>ケースとしてないということはないと思いますが、件数や割合等の実態を把握できておりません。最近では、ニュースで高校生が祖父母を看ているという話も出ていましたが、実態は把握できていないです。民生委員の皆さんの訪問の中で、そのような実態があるとわかった場合は市に情報提供いただいて、我々も一緒に考えていきたいと思しますので、よろしく願いいたします。</p>
会 長	<p>その他いかがでしょうか。 先ほど、地域包括支援センターについて話が出ましたが、地域の実情がそこに集約されるような機関で、非常に重要な位置付けになっています。計画の中でも機能強化について触れられているので、しっかりと取り組んでいただきたいと思っています。</p>
委 員	<p>81ページの「住宅改修等による住環境整備」の「住まいの情報発信」の部分で、「有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の情報提供を行います」とありますが、悩まれている方も極力地域で生活し続けられるように頑張りましょうと伝えておりますが、状況によってはこのまま一人暮らしは難しいという方もいます。有料老人ホームな</p>

発 言 者	内 容
	<p>どを探しても、なかなか自分の経済状況に合ったところが見つからないだとか、行き場がない方も多いと思います。現在はどのような情報提供を行っているのかと、これからのために検討していることがあれば教えていただきたいです。</p>
事 務 局	<p>市の高齢者サービス用のガイドブックやパンフレットはありますが、一つにまとめたものがないので、高齢者サービスと介護サービスがひとまとめになったものを現在作成中です。4月に皆さんにご紹介できるよう進めています。有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅については、ホームページを見てくださいという案内になってしまっているので、市内にこのような施設・住宅がありますとまとめたものを発信できればと計画しています。</p>
会 長	<p>地域包括ケアシステムの中で住まいは真ん中に位置付けられ、非常に重視されています。サービス付き住宅は増えてきていますが、偏りがあります。また、感染症のクラスターが施設で発生すると報道されたり、難しい現状もあります。住まいも一つ重要視していただきたいです。</p>
委 員	<p>先ほどの住まいの件で、高齢者の方がアパートを探そうとしても問題が多く発生して現実的に難しいかと思います。居住支援法人や不動産関係団体との連携とありますが、どのような働きかけをされますか。</p>
事 務 局	<p>新しい住宅セーフティネットとして居住支援法人がありますが、日進を拠点に活動している居住支援法人がいくつかあります。高齢者の方がアパートを借りようとしたときに大家さんに断られたり、保証人の問題だとかがあるときに、居住支援法人にサポートしてもらうことができます。本市だと、都市計画課が居住支援法人を担当していますが、法人と顔合わせをしたときに情報交換であったり、連携していく話をさせていただいたので、お困りの方がいらっしゃったときは居住支援法人につないで、住まい確保の仕組みづくりを行っていきたいと考えています。</p>
会 長	<p>続きまして、第4章について、ご意見などありますでしょうか。</p>
委 員	<p>県のほうでは保健医療福祉推進会議を毎年実施していますが、今年はコロナの関係で2回とも書面開催になりました。また、医療計画の見直しを今年度行う予定でしたが、保健所の2次医療圏の計画の見直しは来年度に行うことになりました。それと、高齢者の計画がリンクして、高齢者の計画が3年ごと、医療計画は6年ごとに見直しますが、今年は中間見直しのタイミングだったのが来年度になりまして、特に101ページの介護サービスの基盤整備のところ、入所施設に関するすり合わせがうまくいってないかもしれません。</p> <p>ちなみに、101ページの介護保険施設の「③介護医療院」は、数</p>

発 言 者	内 容
	<p>年前に厚生労働省が音頭をとって、療養型医療施設から、介護医療院に転換させることが打ち出されました。なかなか進んでいないところもありますが、日進市では、新たに市内1施設、定員80人が整備されているとあって、介護療養型医療施設から介護医療院への転換ということで、保健所にも申請があがっています。106ページも図表にかっこ書きで介護医療院とあり、介護予防短期入所療養介護がありますが、右側の数値が全て0になっています。このことについてお聞きしたいのと、107ページの図表の「(3)施設サービス」に介護医療院があって、令和3年度に50人で、1年ごとに数が増えていくような推計になっていますが、これが先ほどの基盤整備の部分の100床を整備するに当てはまると思うのですが、そのような理解でよろしいでしょうか。</p>
事 務 局	<p>まず、107ページの介護医療院の欄ですが、この2月に80床スタートできると聞いています。ただ、計画を作った段階では50床から始めて、だんだん増えていき、市外の利用者の方も入るであろうという見込みで推計しています。</p> <p>106ページは、ショートで介護医療院を利用した場合ですが、実績を積み上げて推計している形なので、過去の実績がないものは0になっています。ただ、実際介護医療院というものはあるので、ここでショート利用が出てくれば数があがってきます。現時点では0の表記になっていますが、今後は介護医療院としての給付があるものとして想定しています。</p>
委 員	<p>ありがとうございます。地域医療計画は来年度見直しになるので、またすり合わせの際はよろしくお願いします。</p>
委 員	<p>100ページの「介護人材の確保」で、介護サービス事業所のPRの場を設け、広く周知していただけることは大変ありがたいのですが、どの層にどういう状況でという具体的な内容がないと、ただ情報提供するだけで結果に結びつかないように思います。</p>
事 務 局	<p>PR先を考えるにあたってやらなければならないことがいくつかありますが、若い世代などこれから介護の業界を目指す人たちにどのように周知していくかが一つ大きなテーマになると思います。例えば、市内の介護サービス事業所の企業PRのような場を設けることができると構想があります。</p> <p>もう一つは、今働いている人たちが他の業界に流出していかないようにどうしていくのかを事業所含めて一緒に検討していきたいです。私たちも勉強しなければならないと思っているので取り組みとして記載いたしました。</p>
委 員	<p>地域包括ケアシステムを支えるにあたって中核的なサービスであ</p>

発 言 者	内 容
	<p>る、地域密着型サービスについて充実を図っていくことが大切だと思っています。例えば、資料にあるように定期巡回や訪問介護の利用や、リハビリや福祉用具などは利用が伸びていると思われませんが、小規模多機能は計画通りにサービスが使われていなかったり、地域密着型サービス参入の促進についてどのような手立てを講じているのでしょうか。また、計画に対して小規模多機能が低い数値になっていますが、基本目標2に掲げられている「在宅で生活し続けられるまちを目指します」とあって、小規模多機能を利用して家と小規模多機能を行ったり来たりするときによいサービスだと思います。今後、参入促進や、利用促進のために市の独自施策などは検討されていますでしょうか。</p>
事 務 局	<p>まず、参入を促すことについては積極的に進めていくべきと考えています。101ページに介護サービスの基盤整備について、今後3年間や第9期まで含め記載しております。新しく参入を促していくことももちろん必要ですが、介護給付や保険料への影響を考えると、どんどん増やしていいかというのは難しいところもあります。</p> <p>現在、グループホームが5施設ありますが、これから足りなくなるのではないかと懸念されるので検討していく必要があります。また、新しい複合型の小規模多機能に看護サービスがついたものなど、新しいサービスを取り入れていくことも考える必要があると思います。</p> <p>先ほど在宅の話がありましたが、日進は戸建てで、庭があってという家が多い地域だと思いますので、いつまでも住み慣れた我が家で暮らすために、小規模多機能サービスは大変有効なものだと思います。日進は2事業所が行っているのですが、ここが上手く利用されているかといえば、まだまだ伸びしろがあると思います。</p> <p>101ページ、102ページはあくまで施設をどう増やしていくかに重きを置いていますので、市としては今ある小規模多機能をいかに充実させていくかを重要視していますので、第8期では今ある施設の拡充と、在宅で生活されている方や居宅事業所にサービスの周知を図っていきたいと考えています。</p>
事 務 局	<p>小規模多機能に関連してですが、居宅のケアマネさん向けに、小規模多機能がどのようなサービスで、どのように利用していくのかという勉強会をしています。小規模多機能が最初できたころに1回やっていて、そこからなかなか機会がなかったのですが、どういう方が小規模多機能を利用しているのか事例紹介などの機会を設けました。ケアマネさんに理解していただくことは大事だと考えていますので、先日このような機会を設けさせていただきました。周知もしていきながら、小規模多機能活用につなげていければと思っています。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。その他全体を通じて、ご意見などありますでしょうか。</p>

発 言 者	内 容
委 員	<p>計画全体に関わってくることだと思いますが、住民への普及啓発はやはり重要だと考えます。78ページの「在宅医療・介護連携の推進」の部分で「市民への普及啓発」という項目も入れていただいています。実際、やまびこ日進でも年1回市民向けに市民会館で講演会を開催しておりますが、前回老人クラブ会長からご意見をいただいたように、移動手段のない高齢者だとかは市民会館まで行けないということがあります。地域の徒歩圏内にあって気軽に行けるような、例えばコミュニティセンターや集会所で出前講座ができないか、やまびこ日進で計画しています。地域のニーズに合ったいろいろなテーマで、出前講座などができるように市と相談しながら検討していきたいと思っているのでよろしくお願いします。</p>
事 務 局	<p>介護保険全般に関して、市民の方に知っていただくことはとても大事で、市政に関する出前講座を承っています。今年度は香久山で介護保険についてや、地域の支え合いについて、出前講座を実施しました。また、地域包括支援センターも地域に出向いて出前講座などを行っています。ご要望いただいて、介護保険のことや在宅医療のことであったり、医師会の先生方にご協力いただいて、認知症に関する出前講座を行うことができますので、そういったところからも普及啓発に取り組んでいきたいと思っています。</p>
委 員	<p>香久山に住んでいますが、コロナ禍で会員皆さんでたくさん集まることはなかなかできないですが、高齢者福祉施策や地域包括支援センターの役割について講座をやっていただきました。地域でもこのような話を聞ける方は限られているので、それだけで地域に情報が浸透したとは言えないですが、引き続きやっていきたいと思っています。</p> <p>また、80ページの「生活支援体制の拡充」の移動支援について、制度として福祉有償運送がありますが、高齢者が医療機関を受診する際に、足がなくて不便といった問題があるところ、福祉有償運送の制度は利用にあたって制限があったり、事業所も運営に苦労されていると会議でお聞きしました。事業の促進ができるとういですが、住民主体の移動支援についてもいくつか実施が始まっているので、早期に拡充できるよう行政と協力して行ってほしいです。</p>
事 務 局	<p>まず、福祉有償運送事業については、ドライバー不足などで、対応したくてもドライバーとのマッチングができなくてお断りするケースがあったと聞いたことがあります。それらをふまえて、長久手市との共催でドライバー養成講座を始めました。事業所に勤める方で運転資格を持っていない方に講座を受けていただくことで、ドライバーになれるので、これまでお断りしていたケースも対応できるようになると思っています。ただ、福祉有償運送は運送の対価を半額程度に設定することになっていて、経営的に厳しいということもある中、事業所に</p>

発 言 者	内 容
	<p>は地域のためにという想いで取り組んでいただいているので、ドライバー以外の部分でも事業所を支援していくことを考えていかなければならないと思っています。</p> <p>それから、住民主体の移動支援につきましては、愛知県のモデル事業を受けて、市内5つの地域で、住民が主体となって移動支援に取り組んでいただいています。市からやりませんか？と言うのではなく、住民から自分たちで移動支援をやっていくことが必要だと声をあげてもらって、市があとから支援していくという形で行っています。</p> <p>住民の皆さんのできる範囲内でやっていただいている、無理が生じてはいけないので、市や生活支援コーディネーターもそのように支援を続けていきながら、住民の声を大切にバックアップするような形になっています。</p> <p>日東東山の移動支援は12月から始まっていますが、少しずつ住民の方へも定着しているようなので、これからも広がっていくとよいと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。委員の皆様から様々なご意見をいただいている中で、事務局で反映いただいています。また、パブリックコメントも大いに活用されることが重要だと考えますが、時期が難しく、ある程度固まったときのタイミングになってしまいます。令和3年度からの実のある前向きな施策の実行をご期待申し上げます。</p> <p>以上で、本日の議事は終了となります。それでは、「その他」について、事務局からありますでしょうか。</p>
事 務 局	(あいさつ)
会 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして第5回日進市地域包括ケア検討会議を閉会いたします。皆様ご協力ありがとうございました。</p>
	4 閉会